

S-TEAM 教育推進事業 「STEAM」 推進プロジェクト
外部連携支援事業（学校活用型）実施報告書

学 校 名	北海道弟子屈高等学校
実施日時	令和5年5月26日（金） 13:25～14:25
講 師	（ 所 属 ） オホーツク音楽工房・夫婦ユニット「ホラネロ」 （ 職 ・ 氏 名 ） 作曲家・本 田 優一郎、フルート奏者・谷 藤 万喜子 （連絡先電話）090-8311-3345(谷 藤 万喜子) （電子メール）omf@horanero.com
実施概要	<p>1 ねらい</p> <p>情報科情報Ⅰの「コミュニケーションと情報デザイン」において、効果的なコミュニケーションを行うための情報デザインの考え方等について理解し、表現する技能等を身に付ける。</p> <p>教科横断的な視点を踏まえ、音楽領域の専門家を招聘した授業を行い、自校の探究活動の質の向上を図る。</p> <p>音楽領域の専門家から、音楽の制作やプログラミング等の説明を受け、弟子屈にふさわしい曲を模索することで、今後、生徒が探究活動を行うに当たり、「まとめ・表現」の段階で必要となる相手の立場に立ったコミュニケーション能力や表現力を高める。</p> <p>2 日 程</p> <p>令和5年5月26日（金）</p> <p>事務打合せ 12:50～13:25</p> <p>講 義 13:25～14:15</p> <p>協 議 14:15～14:50</p> <p>3 講義、実習等の概要</p> <p>導 入 自己紹介・サウンドロゴとは何か</p> <p>展 開 テレビCMなどの実際のサウンドロゴを聴き、特徴を把握する。</p> <p>他の高校の作品を聴き、日本語のイントネーションに沿って作曲することの大切さについて考察する。</p> <p>「弟子屈（てしかが）」という言葉のイントネーションを把握した上で、それに合ったメロディを5名程度のグループに分かれて作成する。作成したメロディについて協議し、弟子屈に一番ふさわしい曲を模索して完成させる。</p> <p>まとめ メロディを作成し、完成させる過程を振り返り、受け手の立場に立ったコミュニケーション能力や表現力を身に付けることの重要性を確認する。</p> <p>使用教材 Chromebook 鍵盤（生徒がメロディづくりに使用）</p> <p>4 成 果（生徒・教員の変容及びねらいの達成状況等）</p> <p>（1）生徒の感想から</p> <p>「イントネーションだけで相手への伝わり方が変わることや、意味が</p>



よく伝わってしやすい歌詞というのは、話す音程と合わせているからであるということを見出すことができた」等の感想から、講師の導きや生徒同士の対話を通じて、探究活動における「まとめ・表現」の段階で必要となる、相手や目的、意図に応じた表現について考えが深まった様子が見られる。

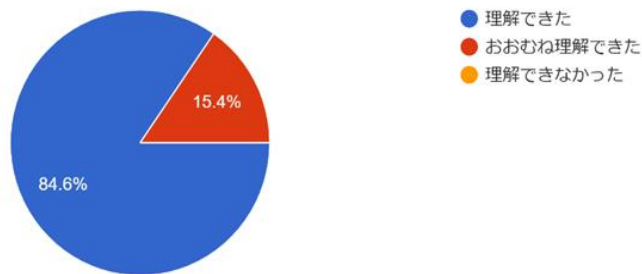
(2) アンケート結果から

生徒は、実際の作品を聴き、協議を重ねる中で、探究活動において情報収集したり、収集した情報を比較検討したりするに当たって、コミュニケーションとしての対話が重要であることを深く学んだ。

また、生徒は、学んだことが役に立つ場面として、「日常生活(76.9%)」、「探究活動(23.1%)」と回答しており、今後、教員が、日常生活に結びつけた題材を用いて探究活動を進めることで、生徒の学びに向かう姿勢も変わっていくのではないかと考える。

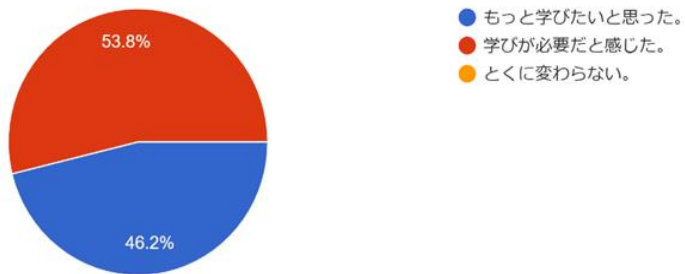
相手の立場を考えたコミュニケーションの大切さ

13件の回答



授業を受けて、コミュニケーションの学び方について

13件の回答



授業を受けて今後の学習活動でどのような場面で役に立つと感じたか。

正解 0/13件

